国立大学法人
福島大学
Fukushima University

プレス発表資料２

令和６年１２月１１日

経済産業省　採択事業
地域経済政策推進事業補助金　ハマカルアートプロジェクト
「鮭　アートのぼり　プロジェクト」が開催！

経済産業省の採択事業である「地域経済政策推進事業補助金」を受けて、福島県浜通りを中心とする 12 市町村の復興を目的に、今年も「ハマカルアートプロジェクト」が始動します。

本プロジェクトは、アート活動を通じて地域の文化の再発見や新しい価値の創出を目指します。福島大学の芸術・表現コースの学生が中心となり、鮭をモチーフにしたアートのぼりを制作し、作品は 2025 年 1 月 11 日から東日本大震災・原子力災害伝承館で展示される予定です。

東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、福島県浜通りでは一部避難指示が続いています。この厳しい状況を受け、地域経済の再生を図るため、経済産業省の支援を受けた「ハマカルアートプロジェクト」が令和５年に立ち上がりました。

本プロジェクトは、アートを通じて地域の文化や歴史を再発見し、地域外からの関心を高め、新たな人々の交流を促進することを目的としています。

相双地区では、秋に多くの鮭が海から戻る光景が見られます。この鮭をテーマにしたアートのぼりを、福島大学の芸術・表現コースの学生が中心となりワークショップで制作します。

また、世界中から作品を広く募集し、地域の魅力を国内外に発信します。これまでに、2011 年から続けてきた「アートのぼり」活動では、世界 14 カ国から 4000 点以上の作品が集まり、様々なメディアでも紹介されています。

本プロジェクトを通じて、福島県の復興と地域振興に寄与することを目指し、地域の方々と共に新たな文化を創造していきます。

（お問い合わせ先）
福島大学　人間発達文化学類教授
芸術による地域創造研究所所長
渡邊晃一
電　話：024-548-8226
メール：koichiw@educ.fukushima-u.ac.jp
Ｈ　Ｐ：http://www.wa-art.com

経済産業省　採択事業

地域経済政策推進事業補助金　ハマカルアートプロジェクト

「鮭 アートのぼり プロジェクト」

福島大学　人間発達文化学類　教授
福島大学　芸術による地域創造研究所　所長
渡邊 晃一

Tel：　024-548-8226
E-mail: koichiw@educ.fukushima-u.ac.jp
http://www.wa-art.com

経済産業省補助事業　ハマカルアートプロジェクト2024

トークイベント
「福島にアートで向かう—なぜ今、福島で"アート"なのか？—」

学生制作型
No. 05

福島大学 芸術による地域創造研究所

事業者情報

代表者	所長　渡邊 晃一
所在地	福島県福島市金谷川1番地
WEBサイト	http://wa-art.com/rclart/

事業の基本情報

事業名	「鮭のぼり アートプロジェクト」（福島ビエンナーレ 海神の芸術祭2026）
実施地域	双葉町　他
連携団体	東日本大震災・原子力災害 伝承館 他

Point

子どもたちと「鮭のぼり」を制作する活動を福島大学の学生が実施

事業の概要

本事業は、生まれた川に「鮭」が産卵のために海から戻る習性や福島の自然にたいする想いと重ねて、「鮭」をテーマとしたアートのぼりを制作する活動です。

相双地区（浜通り地域）は、震災前に鮭の漁獲が盛んに行われていました。江戸時代は資源保護のため乱獲を禁止し、明治には稚魚を川に放す活動が早くからなされてきた歴史もあります。これまで福島大学芸術による地域創造研究所ではアートによる復興支援プログラムとして「鯉のぼり」を復興のシンボルになぞらえ活動してきました。今回は新たに相双地区の「鮭」をテーマに、アートのぼりの作品を制作します。

事業期間中は双葉町をはじめ福島県内の各地でワークショップを行い、子どもたちを中心に多くの方々と一緒に「鮭のぼり」を制作する活動を、福島大学の学生が中心となって実施します。

完成後は、東日本大震災・原子力災害伝承館や双葉町など相双地区で、作品を展示します。また記録集やポスターなども作成して、本事業の活動を広く浸透させる予定です。

2013年5月に福島に飾られた「鯉アートのぼり」

2012年5月に福島空港に飾られた「鯉アートのぼり」

大学名	福島大学（芸術による地域創造研究所）

アートによる文化活動を通じた福島県の街づくりを支援

活動事例

福島ビエンナーレ

福島大学の学生が実行委員となり、2004年に始動した。文化施設、空港、商店街などを会場に、美術の展示、パフォーマンスやシンポジウムなどを開催。福島を拠点に、地域の人々との交流を図り、自主的な活動と活気ある地域づくり、新たな地域文化の創造を目指している。

http://wa-art.com/bien/

風と土の芸術祭

2007年から伝統的な会津本郷焼の産地の「土」を用いて作品を制作し、本郷のメインストリートに作品を展示。地元の子どもたちが地域をフィールドにしたこのイベントに参加することで、自分たちが暮らすまちの歴史や文化を考える「場」を提供している。

http://wa-art.com/misato/

Koi鯉アートのぼり

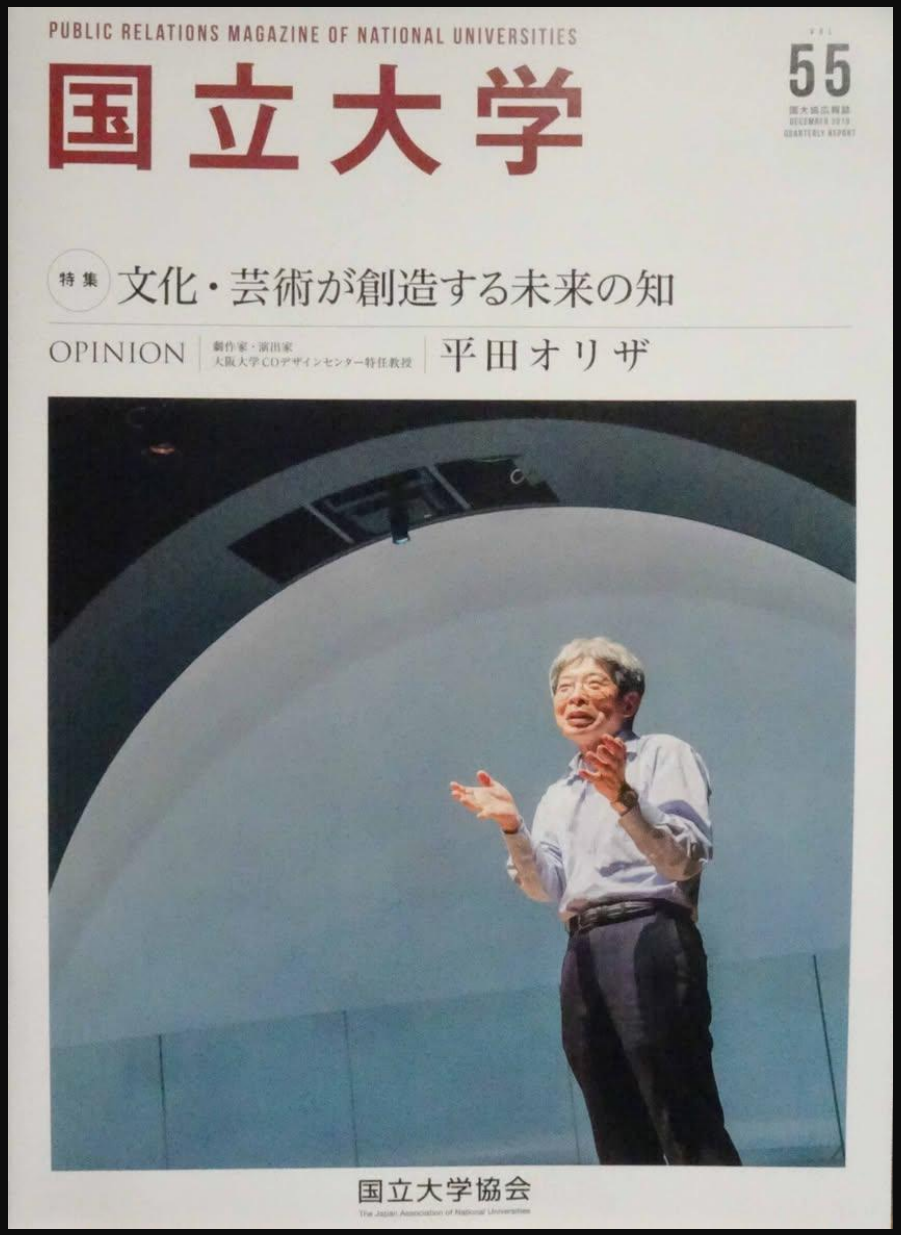
子どもたちと一緒に一匹の大きな鯉のウロコに思いを描き、避難所や学校園に飾るワークショップや、世界各地から寄せられた応援メッセージを福島に飾る「鯉アートのぼり」の活動。図画工作の教科書にも掲載。震災後の福島において展覧会、ワークショップ、伝統的な文化活動の支援を開催。

http://wa-art.com/koi/

参考URL

研究所ホームページ

https://www.ad.ipc.fukushima-u.ac.jp/~p107/irc/thema.html



PUBLIC RELATIONS MAGAZINE OF NATIONAL UNIVERSITIES

国立大学

55

国大協広報誌 DECEMBER 2010 QUARTERLY REPORT

特集 文化・芸術が創造する未来の知

OPINION 劇作家・演出家 大阪大学CDデザインセンター特任教授 平田オリザ

国立大学協会

The Japan Association of National Universities

05 福島大学

アートを学ぶ、アートを感じる　きっと自分の可能性も、地域の未来も見えてくる

福島大学「芸術による地域創造研究所」は、同大学の専門領域を横断した教員と連携研究者（美術館、博物館の学芸員やデザイン、工芸などの他大学の教員）によって構成されている。毎年、福島を拠点に、アートを通した地域活性化に関する学際的な研究を推進してきた。

2004年から開催されてきた「福島ビエンナーレ」は、同大学の学生、院生が実行委員となり、地域をフィールドにテーマを設定して開催する中で、自分たちが暮らす地域の歴史や文化を考える機会を提供してきた。地域の人々との交流や人材育成、学生の卒業後の進路にも関連する実践的な場となっている。アートの展示やパフォーマンス、アーティストの講演会、シンポジウムなどの多種多様な企画は、「The Japan Times」などの新聞やテレビでの紹介をはじめ、国内外でも広く紹介された。

参加した学生からは、「芸術企画演習で舞台のスタッフとして参加した。基本的に個人で制作するものにしか携わったことがなかったので、複数人でつくりあげる芸術を経験できるとても良い機会であった」「アーティストを講師として迎えた企画で、そのグローバルな世界観と考え方に触れることができた。今後は私も芸術の幅を広げられるよう積極的な制作活動をしていきたい」という声が聞かれた。

「福島ビエンナーレ」：福島大学の学生が実行委員となり、2004年に始動した芸術企画

同研究所は、下記に掲げた7つの研究活動、3つの企画プロジェクトを行っている。

7つの研究活動

1. 芸術文化による「街づくりの必要性」に関する研究
2. 芸術文化を通じた「街づくり・地域の活性化」の事例研究
3. 県内モデル地域における文化政策研究
4. 「アートプロジェクト・芸術」の企画と運営による実践研究
5. 芸術文化による国際交流
6. 東日本大震災後の復興支援
7. 学生の学習効果の検証

3つの企画プロジェクト（一部）

1. 地域産業と連携した研究開発と新たな商品デザイン
   - ● 主な作品
     - ・商品開発（「ももりんサブレ」など）
     - ・会津本郷焼11件の窯元と共同の新作品
     - ・「福島県環境と共生する農業」広報ポスター制作（福島県）
     - ・木景観形成促進事業「観光案内看板デザイン」
2. 国、福島県・市の企画事業との「産官民学」連携
   - ● 主な活動
     - ・「第20回全国生涯学習フェスティバル2008」（福島県）
     - ・「福島こどものみらい映画祭」（福島県）
     - ・「バセオ・ミュース」（福島市）
     - ・「磐梯熱海アートストリートプロジェクト」（磐梯熱海温泉）
3. 福島大学で企画したアートプロジェクト
   - ● 主に企画・運営した芸術祭
     - ・「福島ビエンナーレ」（福島市、福島空港ほか）
     - ・「風と土の芸術祭」（会津美里町）
     - ・「豊穣の芸術祭」（湯川村）
     - ・「重陽の芸術祭」（二本松市）

研究所ホームページ
https://www.ad.ipc.fukushima-u.ac.jp/~p107/irc/thema.html

第55号テーマ
「大学と文化・芸術」

Challenge! 国立大学

01 北海道大学 …… 09
学芸員のリカレント教育で地域文化の振興に貢献

02 東京大学 …… 10
分野融合型のアート研究と実技教育で、社会の未来をひらく

03 東京藝術大学 …… 11
「I LOVE YOU」で、社会を変える芸術の力を発信

04 香川大学 …… 12
アート視点で地域の課題の発見・解決を目指すDRI教育を推進

05 福島大学 …… 13
アートを学ぶ、アートを感じる きっと自分の可能性も、地域の未来も見えてくる

06 愛媛大学 …… 13
四国の文化を世界へ発信！「四国遍路・世界の巡礼研究センター」

各国立大学で取り組む『文化・芸術活動』 14

福島大学地域創造研究所・震災復興祈念のプロジェクト

東日本大震災後の活動
『 Koi 鯉アートのぼり 』

Koi-Art Project 1
Big-Koinobori in a refugee area

Koi-Nobori Art Project in Fukushima:
Development of a Therapeutic Art Project for Children:

福島大学地域創造研究所・震災復興祈念のプロジェクト

東日本大震災後の活動
『 Koi 鯉アートのぼり 』

Koi-Art Project 1
Big-Koinobori in a refugee area

by Koichi Watanabe,
who created the Koi Art Nobori project to help children in refugee centres
and to rebuild the spirits of the city of Fukushima

福島大学地域創造研究所・震災復興祈念のプロジェクト

東日本大震災後の活動
『 Koi 鯉アートのぼり 』

Koi-Art Project 2
Small koi-nobori

Tohoku Recovering

Koichi Watanabe created the Koi Art Nobori project to help children in refugee centres and to rebuild the spirits of the city of Fukushima.You can contribute a Koi Nobori work to the art project that continues until this year`s Fukushima Art Biennale.

東北六魂祭

2013年6月1日･2日

25万人来場

栗原小巻

五味太郎

奈良美智

伊藤有壱

Koi-nobori Art created by artists

France / Paris

2012年～

4th Annual Far East Fusion: **Koi-Art from Fukushima and**

海外作品

徳雅美

C.Kanazaki

H.Mafuji

V.Charles

Madeline Widerberg

Jon Cairns, Faith Edwards

星宮ひろし

Zero Reiko Ishihara

Martin Hakan Weigl

Max Weinberg

Aldona Szykulska
Ii Liceum Ogolnoksztaecace

Ayşe OZBAKİ GÜLER

Lorena Hamaguchi

Jorge Ismael Rodriguez

Md Talikat

<u>15 Countries</u>: USA, Canada, Mexico, Peru, England, France, Germany, Switzerland, Finland, Australia, Turkey, China, Taiwan, Korea, Bangladesh.

「　こいのぼりで避難所に元気を 」　NHK放送局　2011年3月25日

「　希望、感謝・・　福島の空へ」　NHK放送局　2011年3月25日

「　被災者をはげます鯉のぼり
　福島大学プロジェクト　　」　山形新聞　2011年4月19日

「手作りプロジェクト　全国から賛同
　こいのぼりを被災地へ　　」　茨城新聞　2011年5月5日

その他、毎日新聞、産経新聞、共同通信社　などで　全国に紹介

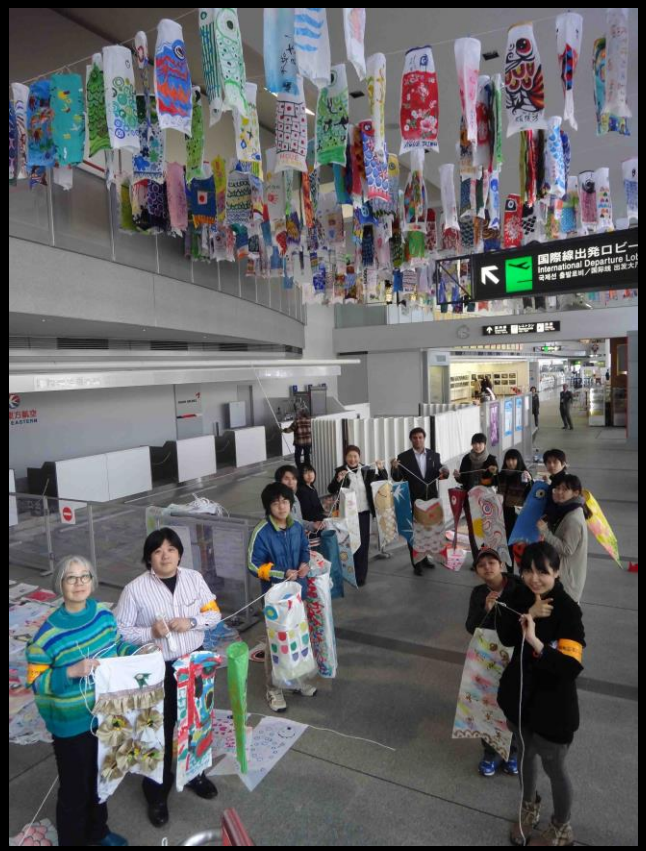
福島大・渡邊教授プロジェクト「鯉アートのぼり」教科書に

来年度の小学図工2社（日本文教出版、開隆堂）に掲載

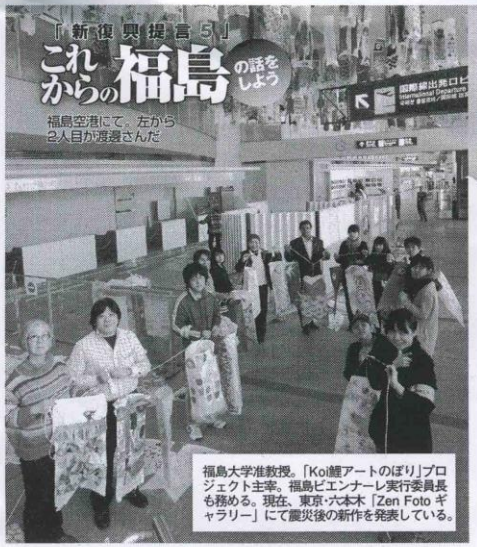
福島民友　2014年5月23日

『週刊女性自身』
2012 4月号

特集
Fukushima after 3/11/2011



『新・復興提言5』
これからの福島の話をしよう



福島空港にて、左から2人目が渡邊さんだ

福島大学准教授。「Koi鯉アートのぼり」プロジェクト主宰。福島ビエンナーレ実行委員長も務める。現在、東京・六本木「Zen Foto ギャラリー」にて震災後の新作を発表している。

提言3

芸術による地域創造研究所所長・福島大学准教授 渡邊晃一さん43

『子供たちの手作り鯉のぼりが毎春、空を彩る街に』

今、福島空港のロビーでは、約千匹の鯉のぼりが悠々と泳いでいる。同じものは一つとしてない。すべて国内外から送られてきた手作りのものだ。

小学生以上の話です。最も放射能の感度が高い3歳未満児の口に入る分が抜けている。これは厚生労働省の所管になるので、このままでは保育園の調理室にいる調理師さん、栄養士さんにすべてお任せしてしまうことになる。そこで、私は保育園の調理室を支援しながら食材を徹底管理する制度の必要性を主張しました」

さらに、食品の新たな基準値にも問題があるという。

「4月1日から食品の暫定基準値が新基準値に変わりますが、いくつかの加工食品は暫定値のまま賞味期限日まで流通することになります。

今、若い女性と乳幼児には、日本全体でいちばんベクレル数の少ない食材を食べてもらうべきなんです。気をつけて、将来何もなかったらそれでいい。徹底的なベクレル管理をするシステムをまず最優先で福島に構築し、日本全体が福島をお手本にしなくてはいけないのです」

3・11以後、自分の使命を『日本の未来と子供を守る』ことに定めたという平議員。

「今、福島の子供を守ることは日本の未来の宝である子供たちを守ること。福島の未来＝日本の未来です。日本全体の問題として、私たちみんながこの先何年も勉強し、考え、声をあげ続けていかなくてはいけない問題なんです」

「カナダ、沖縄、フランスでも展示されているんです。僕が起点のプロジェクトですが、どんどん広がっています」

優しい表情で語る、渡邊晃一さん(43)。手作りの鯉のぼりで福島の街を飾る「Koi鯉アートのぼり」プロジェクトの発起人だ。そのきっかけとは。

「福島大学の体育館にも原発に近い浜通りからの被災者の方たちが100名ほど避難していました。僕も学生たちと一緒に支援活動として、全国から届いた画材や絵本などを届けに行ったのです。

そのとき、一方的にモノを渡すのではなく、自分たちで生み出す活動をしたいと思いました。そして子供たちには、与えられるのではなく、自ら継続的に未来を想定し考えられるようになってほしい。

そこで、子供たちと、寒くて殺風景な体育館を鯉のぼりで飾ろうと閃いたんです」

どうして鯉のぼり？

「まずkoiは世界で通じる単語ですし、里の魚と書く鯉は土地に根ざした魚で、日本の伝統的な魚のイメージがある。

次に、福島は鯉のぼりの原型となった『絵のぼり』という伝統工芸が盛んで、震災までは真鯉の生産も一番。鯉こくという会津の伝統料理もあり、地域のイメージもある。

滝を登り龍にならんとする鯉のぼりは、復興のシンボルにふさわしいと思いました。『こどもの日に飾るもの』という点も気に入りました。

もともと鯉と鯛を制作テーマにしていたり、子供のとき、すごく憧れていたという個人的な理由もありますが（笑）」

しかし、メディアで紹介後は既製品が届いたことも。

「ちょうどそのころ、街じゅうに『がんばろう福島』という旗が飾られていました。

それを横目に『僕たち十分がんばってるよ』と思いながら、印刷された呼びかけじゃなくてメッセージがこもった手作りのものを街じゅうに掲げたいと思いが膨らんでいったんです。そこで、街に飾れる75×35センチの手作り鯉のぼりを、5月5日に福島の街に飾ろうと呼びかけました」

当初予想していた200点を軽く超え、600点が世界中から集まり、今では千点を超えた。画家の奈良美智や女優の栗原

避難所で子供たちと手作り鯉のぼりを作成

Exhibition 2025

鮭アートのぼり プロジェクト展

2025年

1月11日(土)～3月11日(火)

東日本大震災・原子力災害伝承館

〒979-1401 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田39
☎0240-23-4402 ✉archive@fipo.or.jp

9:00～17:00（最終入館16:30）
火曜日休館（祝日の場合は翌平日休館）

「鮭アートのぼり」展示エリアは観覧無料

福島県の浜通り（相双地域）では双葉郡の木戸川などで、秋になると多くの鮭が産卵のために、海から生まれ故郷の川へと戻ってきます。東日本大震災前には鮭の漁獲が盛んに行われていました。江戸時代は資源保護のため乱獲を禁止し、明治時代には全国でもいち早く稚魚を川に放つ活動がなされてきた歴史もあります。そのような生きものの習性や豊かな自然に対する想いとも重ねて、鮭をモチーフとして制作されたのが「鮭アートのぼり」です。

福島大学の芸術・表現コースの学生が中心となって、アートのぼり作りのワークショップを各地で開催し、また世界中からも広く作品を募集してきました。ワークショップで制作された作品に加え、子どもたちの未来への思いを込めて国内外のアーティストなどによって制作された作品を展示いたします。

Salmon Art Nobori Project
http://wa-art.com/salmon/

経済産業省「地域経済政策推進事業費補助金（映像芸術文化支援事業）」ハマカルアートプロジェクト　福島大学 芸術による地域創造研究所

鮭アートのぼり プロジェクト

Salmon Art Nobori

Workshop

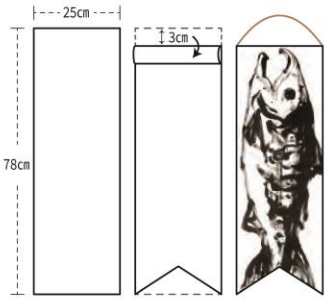
「富岡秋まつり2024」会場でのワークショップ
令和6年11月9日（土）／富岡町文化交流センター「学びの森」

「木戸川朝市」会場でのワークショップ
令和6年11月10日（日）／木戸川漁業協同組合事務所前広場

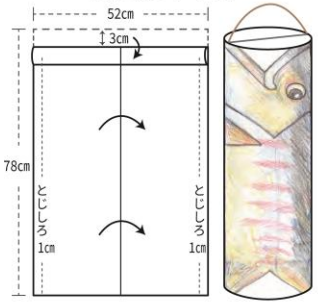
「鮭アートのぼり」作品募集要項

- 「鮭アートのぼり」の大きさは、75cm×25cmです。※下記の図を参照ください。
- 作品に描く形、色、文字やメッセージの言葉の有無などは自由です。
- 外に飾ることを想定した素材を使用して下さい。（布、不織布、アクリルなど）
- 展示の際に、のぼりの口の部分に棒（直径1.2cm程）を取り付けますので、棒の差し込み口を製作してくださると助かります。
- のぼりの体裁は、旗タイプと吹き流しタイプ（筒状）があります。吹き流しタイプでは図柄を両面に描いていただけると嬉しいです。

【旗タイプ】



【吹き流しタイプ】



Art-Nobori Project

福島大学芸術による地域創造研究所では、2011年から復興祈念の幟旗として、「鯉のぼり」のアート作品を制作する活動を継続的、長期的に続けてきました。鯉が滝を昇り龍となるように、「風」を巧みに利用し、生き生きと泳ぐ幟旗の姿は、子どもたちの未来へエールを送る象徴的な意味合いも持っています。これまで世界14カ国から4000点以上の作品が贈られてきました。今回新たに「鮭」をモチーフとしたアートのぼりの制作も始まり、2026年に開催の「福島ビエンナーレ」に向けて活動を続けています。

お問い合わせ・連絡先
福島大学 芸術による地域創造研究所
〒960-1296 福島市金谷川1番地　Tel：024-548-8226 Fax：024-548-3181　koichiw@educ.fukushima-u.ac.jp

Koichi Watanabe Fukushima University Department of Arts | 1 Kanayagawa Fukushima-city 960-1296 Japan

事業期間中の主なイベント

Event 1　福島の未来を想い、「鮭」のアートのぼりを制作

10月19日（土）
▼
1月11日（火）

双葉町をはじめ福島県内の各地でワークショップを行い、子どもたちを中心に多くの方々と一緒に「鮭のぼり」を制作する活動を、福島大学の学生が中心となって実施。ワークショップの中では、地域住民の方々と地域の未来を語り合いながら、多種多様な形や色彩、言葉なども交えながら、作品を制作します。またHPを設置し、国内外のアーティストに広く作品を募集します。ワークショップは双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館や富岡、浪江、南相馬などの文化施設や福島県内の中学、高等学校で実施（実施場所や日程は調整中）

Event 2　「鮭のぼり」の展覧会と記録集の作成

1月11日（火）
▼
3月11日（火）

地域の方々とワークショップで制作された作品と一緒に、国内外から送られてきた「鮭のぼり」を展示。展示場所は、東日本大震災・原子力災害伝承館や富岡、浪江、南相馬などの文化施設で開催したいと考えている。作品制作や展示の際には記念撮影も行い、記録集を作成。HPなどで国内外に広く伝えたい。

事業全体のスケジュール

経済産業省　ハマカルアートプロジェクト

11月９日　富岡町の「秋まつり」

経済産業省　ハマカルアートプロジェクト

11月９日　富岡町の「秋まつり」

経済産業省　ハマカルアートプロジェクト

11月10日　楢葉町　木戸川朝市

経済産業省　ハマカルアートプロジェクト

11月10日　楢葉町　木戸川朝市

経済産業省　ハマカルアートプロジェクト

11月10日　楢葉町　木戸川朝市

Exhibition 2025

鮭アートのぼりプロジェクト展

2025年

1月11日(土)～3月11日(火)

東日本大震災・原子力災害 **伝承館**

〒979-1401 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田39
☎0240-23-4402　✉archive@fipo.or.jp

ご静聴ありがとうございました。